

会議の概要(議事録)

会議の名称	3 - 2 3	第3回墨田区立学校適正配置等審議会		
開催日時	平成16年11月16日(火)午後4時00分から午後5時55分まで			
開催場所	墨田区役所 第一委員会室			
出席者数	26人【委員】尾木和英 堀内一男 早川幸一 中沢進 沖山仁 槐勲 片倉洋 小幡昇治 奥住益宏 大倉正敏 高島隆一 志波洋子 森八一 粕谷秀雄 西城敬功 川島康義 阿部貴明 登坂達雄 長谷川ミチル 【事務局】次長 庶務課長 学務課長 指導室長 生涯学習課長 区立学校適正配置担当主査 区立学校適正配置担当主事			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる) 部分公開(部分傍聴できる) 非公開(傍聴できない)	傍聴者数	10人	
議題	1 墨田区立学校適正配置等審議会(第2回)の記録について 2 第2回審議会において請求のあった資料について 3 新たな区立学校適正配置の基本的考え方 * 区立学校の小規模化の解消 4 次回(第4回)審議会の開催日について			
配付資料	1 第3回墨田区立学校適正配置等審議会【次第】 2 第2回墨田区立学校適正配置等審議会 議事録(案) 3 第2回審議会において請求のあった資料 学校選択制度について 押上小学校PTA広報特別別冊分析結果			
所管課	教育委員会事務局 庶務課 区立学校適正配置担当 (内線5136)			

第3回墨田区立学校適正配置等審議会 議事録

1 墨田区立学校適正配置等審議会(第2回)の記録について

会議の概要の内容について確認した。合意後、会議の概要と資料についてホームページ及びPRコーナーにおいて公開する。

2 第2回審議会において請求のあった資料について

学務課長より学校選択制度について資料説明。

庶務課長より押上小学校PTA広報特別別冊の分析結果について資料説明。

3 新たな区立学校適正配置の基本的考え方

* 区立学校の小規模化の解消

庶務課長より下記の内容について説明。

- (1) 墨田区全域を視野に入れた検討
- (2) 区立学校の現状と問題点の把握
- (3) 小規模校の学校教育への影響

【主な意見】

委員：小学校と中学校を区立学校ということで同じくくりでいいのか。小学1年生と中学生を同じ環境として考えていいのか。学校の置かれている課題も違っている。安定した規模ということで議論をする際には、小学校と中学校を分けて議論の整理をしたほうがいい。

会長：小規模校の学校教育への影響について配布資料に基づき説明する際に、時間の関係上、墨田区立学校適正規模等審議会において小学校と中学校と一括で議論したような説明であったが、小学校と中学校それぞれの独自性に着目して別々に検討した。メリット、デメリット、問題点について様々な角度で時間をかけて検討を行った経緯がある。やはり、小学校の独自性・中学校の独自性があるので、小規模化の解消について今後検討していく際にも、それぞれ検討をしていきたい。

委員：課題を取り上げて、それに対して論議するように話が進んでいるが、今は生徒の資質が多様化し、そのことを重視する教育が言われている中で、それぞれの学校規模校の良さを活かした、成果の視点からも議論してほしい。

会長：小規模校であるということの功と罪がある。それも墨田区立学校適正規模等審議会で大いに議論した。現在も、小規模校であっても学校において最大限の努力で教育活動をしている。小規模校の今までの取り組んで来た実績は大事にしていきたい。

委員：学校選択制による小規模化ということもある。東京都の人口等推計が出ているが、学校選択制による増減等があるのに、このとおり推移していくのか。この推計には学校選択制による移動の数も含まれているのか。

事務局：東京都の人口等推計の基となる数字には、学校選択制、マンションの建設なども加味していると聞いている。

委員：学校選択制も汲んでいる数字だと思うが、教員の在籍期間が6年間ということなので、将来の教員の人事の面も含めて考えて欲しい。小規模校の概念を整理していただけるとありがたい。

会長：このような事情、動向を考えて資料を作っていくようお願いしたい。

委員：前回にも申し上げたが、学校選択制が導入されて中学校では3年たち、吾嬭一中の生徒数が70名となっている。実際の学区の生徒数の実態と大きくかけ離れているのではないか。これから適正配置をしていっても、学校選択制など現状の制度のままであれば、適正配置が出来ないと考える。

事務局：東京都の推計は現在の学校選択制も加味した数字と理解している。児童・生徒数は、現在ピーク時の4分の1に減少している。学校数は、これまで適正配置を実施しているものの、ピーク時とそれほど変化がない中で、学校数が多いのではないかということである。今後、学区域の見直しも前提にしながら検討していただきたい。

会長：今後の適正配置を考えていく中で、特定しにくい条件が2つある。1つは、今後の人口推計の動向がはっきりしないということ。2つめは、学校選択制。基本的なことで審議を進めて、最後のほうでこれらの状況を組み入れていきたい。

委員：教育改革の議論のうち、学校選択制をこのまま続けていくのか。適正配置と関わっていく問題だと思う。選択制の経過についての資料の中で、学校選択制度の効果としてあるが、学校選択制に対する問題点は、区長も教育長も理解していると発言している。決められたスケジュールがあるが、広範囲の区民の意見を踏まえて検討する必要がある。このことは意見として言っておきたい。

会長：意見として受け止め、4回以降に関連して出てきたときに必要があれば検討していく。中心は適正配置の問題であり、周辺の問題として必要があれば含めていく。

委員：学校選択制について、区長や教育長も問題点が多いと認識しているような発言があったが、それは個人の認識である。選択制を導入した際に、大規模校・中規模校・小規模校が出来ることが考えられるが、極端な場合、統廃合のきっかけとなってしまうのではないかということに関して、教育委員会では、たとえ選択制の結果、小規模校になったとしてもすぐに統合はしないとやっている。大規模校と小規模校の両面のいろいろなモデルがあって、特色豊かな学校も大事ではないか。まだ学校選択制が導入されて3年で明確な結論は出せないが。

会長：小規模校となっても、すぐにそれについて議論するのではない。子どもの教育にとってどのような教育環境がいいのか、知恵を出して最も良い方策は何か考えていきたい。

(4) 安定した適正規模の維持を図る方策

庶務課長より説明。

【主な意見】

会長：墨田区立学校適正規模等審議会でも、最初は通学路の見直しについて検討していた。今回の審議会では、どのようなことが考えられるのか。最善の方法とは何かなどについて検討をお願いしたい。

副会長は、中央区で統合した中学校の校長をしておられた経験があるので話をお聞きしたい。

副会長：中学校の選択の理由は、配布資料の理由とは違う理由で選んでいるということがある。的確ではない理由、いろいろなうわさが広がり風評として親に伝わるようなこともある。12～18学級だからといっても、適正なときには出来たけれども、学校規模が大きくなりすぎて出来なくなったということもある。

会長：第2回の審議会の発言の中にも、数だけの問題であるなら、あとは線引きだけになるという発言があったが、適正配置は数字だけの問題ではなく、教育内容の充実のために議論をしていただきたい。

委員：平成5年から7年にかけて検討されたものを基本にするということについて、今とはずれが生じているのではないか。小規模の良さという話もあったし、通学区域、学校選択制と変わってきている中で、基本にするのはナンセンスではないか。学級数についても、40人学級を前提にするということについて特に論議がないが、小学校の場合、現状では30人ほどの学級規模になっている。先生が教えるのは30人が適正だと私は思っている。小規模校の良さはそういうところにあると思う。

委員：1週間前に中和小に行って回りを歩いた。学校の掲示板には、小さい学校だからこそ、6年生が全員の名前を覚えているとあった。兄弟が少ない現状で、学校の中で兄弟学年を作り交流を行い、兄

弟関係が出来る。自分の時には学年で4学級あった。同じ学年の人の名前すら覚えられていなかった。こういう学校での兄弟関係が出来るということは、とても良い教育環境だと思う。

委員：ある大規模校の学校の子どもは、遠いところから通っている。地域の人から、そういう子どもたちが地元で遊んでいるところを見たことがないと聞いた。

委員：小規模で良い所はよくわかる。ここで小規模校の悪口を言う人はいないと思う。ただ、現実問題として小規模校があるので、本当に10年・20年後このままでいいのかどうか。冷静に考えて、適正規模はどうか。小規模になってしまった学校が、果たして理想の学校なのか考えたほうがいい。大小の学校を残すのは、税金を不公平に割り振っていることになるのではないかと。そのまま放置することがいいのかどうか。平成13年に学校選択制を導入したときに、学校の規模がアンバランスになるのは分かっていた。学校数と児童数が適正な数になったときに学校選択制が、どう生きてくるか。

委員：学校選択制の下の小規模の話になっているが、現場の先生方、PTA、地域の方々の努力によって改善されてきている。平成17・18年度には努力の結果が出るのではないかと。学校と地域との関係を大切にしていきたい。地域に学校がなくなってしまうということになるが、学校と地域は長い道のりで築いてきた関係がある。

委員：押上小学校の5周年式典を体験してきた。ここにいる3分の1位の委員さんが体験されたのではないと思うが、統合前の方や統合後5年間の方が話をしていた。そういう話を聞くと、統合してよかったと思う。

会長：今の学校での自己点検評価に関わることである。小規模校で蓄積してきたことについては、今後も引き続いて継続していけるようにしたい。押上小学校の件についても、時間的な流れ、評価となる資料をお願いしたい。

委員：先ほど成果を活かしていくという発言をしたが、小規模校の成果も大規模校の成果もあり、成果と課題はうらはらなので、課題ばかりを取り上げるのではなく、そういった成果についても話を進めてほしいということである。地域の中で、地域の子どもを育てる環境づくりが必要であるので、地域と学校の関係についても検討をしてほしい。

委員：まずは数ありきではないということを確認したい。学校を適正に配置して、子どもの教育環境について検討をしていく。PTAとして、地域との関係が一番大きく、地域が育んでくれるというこの地域の良い所を活かして、学校が求心力を発揮できるようにしてほしい。

委員：第1回目の統廃合の経験をした押上小学校が5年たって、その経緯と経験がある。5周年式典での押上小学校の父兄の挨拶でも、これまでいろいろな議論があったと話しているのを目の前で聞いている。これからの参考になるのではないかと。

委員：現在の押上小の校長は与えられた環境を最大限に活かして教育活動を行っている。なぜ押上小があの場所になったのかについて疑問に思っている。また現在の押上小は周りが囲まれており、災害があったときに対応できないのではないかと。文花小なら団地の中で開かれている。なぜ押上小を現地にしたのかについても説明願いたい。

会長：全国的にも学校選択の自由化は進んでいる。選択によって大きく膨れたものも戻りつつある。できれば、比較的環境の似ている台東区で取り組んでいる情報を得られるならば、情報として検討してほしい。

委員：小規模校は残す、残さないということではなく、仮に学校をつぶすとなると絶対どこも反対する。押上小の位置は、旧二吾小の地域の人々の要請が強くてそうなったと聞いている。地域を納得させる

材料作りをしないといけない。

委員：地域とのつながりということで、ある町会では2つの学区域がまたがっていたり、1つの小学校から2つ以上の中学校が進学先になっているところがあるので、このことについての資料をいただきたい。

事務局：第2回審議会の資料14と資料15に出ている。

委員：押上小の位置が、なぜ文花小にならなかったかという話が出ているが、子どもたちの通学について検討した結果、統合3校のほぼ中央に位置する二吾小に決めた経緯がある。文花小は通学区域の1番左のはじにあり、東武と京成の踏み切りと十間橋通りなど2つの大きな道路を越えて通学する児童が出てくる。現在の押上小は道路に囲まれているので拡張することが出来ないが、当時は、曳舟中の跡地が総合グラウンドになる計画だったので、ここを使わせてもらう予定だったが、区の財政上の問題でまだ建設されていない。通学区域を考えて、押上小の位置になっている。

委員：地域の代表として出席しているので、地域の立場で言うと、20年前にある中学が出来た。一方、歴史ある中学の人数が少なくなり廃校になるのではないかとされている。皆さん方と慎重に審議して、地域から要望のある学校はぜひ残せる方法を考えたい。

委員：安定した学校規模を図る方策の前提条件として、学校形態をそのままにするのか、又は、可能性として、小中一貫・中高一貫校などについても考慮するのか決めておく必要がある。それを検討するのであれば、許される法令の範囲内でどのようなことが可能なのか検討していいのではないか。

会長：本日は委員の皆様から次回以降の検討について様々な意見をいただいた。より良いものを作り出すためには、痛みも伴うものである。次回以降、皆様方のお知恵をいただき、より良いものとなるよう努力してまとめたいと思っている。

4 次回(第4回)審議会の開催日及び今後の審議会開催日(案)について

第4回審議会：平成17年 1月14日(金)午後4時から。